

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

鳥取県革新懇ニュース

No.45

2014年

11月10日

〒680-0811 鳥取県鳥取市西品治806(鳥取県労連気付)
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

境港で「平和のための戦争展」



出征兵士・軍属の遺品に見入る参加者(10月19日、境港市)

10月18日(土)・19日(日)、「平和のための戦争展」語り伝えよう、受け継ぐ戦争の記憶」が境港市市民会館と中央公民館で開催され、戦没兵士の遺品等の展示、戦時体験回顧、玉栄丸爆発事故の被災体験と真相究明、『はだしのゲン』の絵本・紙芝居、講演「戦争と教育」、戦時の代用食試食など盛りだくさんの内容で、定刻前から250人を超える入場者でにぎわいました。

全国九条の会の「統一行動月間」中の取り組みとして境港九条の会が呼びかけ、7団体で実行委員会を構成して企画、実施し

◆関心集めた展示品と玉栄丸事故
展示では、戦没兵士の遺品・記録に関心が集まりました。中でも、旧上道村出身陸軍兵士の戦死を伝える『昭和7年11月17日午前4時20分北満佳木斯附近大山伍長戦死実況図』(同村出身の戦友が布に画いた絵図)、部隊長直筆の弔慰状(巻物に表装)、境港駅頭での葬列と師団主催慰霊祭の写真、葬儀参加者芳名録など丁寧に保存されていた資料が初めて公開され、目を惹きました。その戦功を讃える『満州事變鳥取縣下戦死者列傳』(昭和9年刊)中の「渡村の部」に肉親の名を発見して、「あ、これは戦死した私の兄だ。初めて見た!」と涙ぐむ妹の姿もありました。ある市史編

募委員は、「短期間によくこれだけの物を集められましたねえ」と感嘆し、個々の展示物について熱心にメモと写真をとっていました。玉栄丸事故について根平氏は、長期にわたる遺族や軍関係者などへの聞き取り調査をつうじて、死亡者は115人ではなく120人であること、爆発は、慣れぬ荷降ろし作業に従事した陸軍兵士3人が隠れたばこをし、投げ捨てた吸殻が地面にこぼれていた火薬に引火して火薬庫に移ったのが真因、死亡した玉栄丸乗組員の日本人は船長ら5人、他に朝鮮人が多数いたのにも所在も安否も全く明らかにならず、この重大事故で誰ひとり責任を取った者はいない、戦争の恐ろしさと平和の大切さを希求している、と語りました。ろくに中身の入っていない代用食で空き腹を満たせないひもじさを追体験してもらおう「戦時中の食事体験」で、実際に出されたものは「美味しかった」。『美味しく作ってはいけない』と指示していましたが、そうはいきませんでした。

◆寄せられた評価と今後の課題
アンケートには77人が応えました。「これだけの貴重な品をよくぞ集められた」「語り部の話がよかった」「境港市政施行後のイベントで最も価値ある催しでした」「玉栄丸事故のことがよくわかった」「係の人に展示について説明してもらって良かった」

た「戦争の怖さがよくわかった」「戦争は絶対にダメだ」などと記され、開催の意義がよく理解されていました。実行委員会の発足が8月9日、準備期間は短かったですが、その中で構成団体のメンバーは、分担を決め、企画の具体化と展示品集め、出演者探しなど、連携しながらフル回転しました。特に展示物の収集は、スタッフの自宅や実家、親戚、友人宅などに所蔵されていた物など、予想以上の点数が集まりました。初の戦争展成功に向けた構成団体の熱意と結束、積極的な相互協力が、見事な成果を生み出しました。広く呼びかけて展示物をさらに収集し、その保管・管理の体制も整えなが

【展示コーナー】両日、大会議室

- ◎出征兵士・軍属の遺品
防毒マスク、鉄カブト、背囊、飯盒、水筒、ゲートル、ラッパ、防空頭巾、軍隊手帳・憲兵手帳、従軍記章、武運長久を祈る千人針と日の丸の寄せ書き、戦地の慰問袋、現在の市域からの全出征兵士の記録(出身、所属部隊、戦死の状況)等。
- ◎玉栄丸爆発事故(昭和20年4月)の写真、『山陰の戦災記録』
- ◎原爆写真パネル
- ◎戦中・戦後の暮らしを語る鉄鍋、羽釜などの日用品類、戦中の教科書、戦後の英語教科書、マンガ、少年雑誌類

【18日(土)の催し】

- 10:30~12:00 語り部コーナーⅠ 大会議室
美濃部賢次氏(日本基督教団境港教会牧師)
*戦争協力の反省と非戦、改憲反対の決意
根平雄一郎氏(前市教育長、境港歴史研究会代表)
*玉栄丸事件の真相を語る
- 14:00~15:30 大会議室
山根俊喜鳥取大学教授講演
*「教育勅語の成立過程から道徳の教科化を考える」
- 16:00~ 和室1号
映画『泥にまみれた靴で』(30分)ほか上映

【19日(日)の催し】

- 10:30~12:00 語り部コーナーⅡ 中央公民館
安田 啓氏(三軒屋町)
*19歳で応召。戦後の新憲法制定から改憲の動きまで
安川 敦子氏(南部町)
*大阪から疎開中に玉栄丸事件で被災した小2少女の記憶
- 和室1号
10:30~11:30 絵本朗読『はだしのゲン』平家六榮氏(鳥取市)
11:30~13:30 戦時中の代用食試食
すいとん(団子汁)、ムギ飯、芋粥
- 14:00~15:30 紙芝居上演『はだしのゲン』平家氏
大会議室
14:00~ 映画『泥にまみれた靴で』(30分)ほか上映

鳥取県母親大会に150名参加

第51回鳥取県母親大会が10月5日、鳥取市さざんか会館と鳥取市高齢者福祉センターを会場に開かれました。

オープニングを飾ったのは、鳥取男声合唱団エルダーブラザーズの23名のみなさん。戦場に連れ出されて死んだ若者の無念を唄った「しゃれこうべと大砲」、「長崎の鐘」と、母親大会の趣旨にふさわしく、平和を願う歌を披露していただきました。すばらしい歌声と詞の切ない内容に会場は引き込まれました。

続いて、なかにし礼さん作の詩「平和の申し子たちよ、泣きながら抵抗を始めよう!」を今本明子さんが朗読。集団的自衛権行使を容認した安倍内閣に対して、戦争を恐れ、臆病になることは少しも恥ではないと、これから生きる若者たちにエールを送る詩を、心を込めて読んでいただきました。

大森典子弁護士の講演「憲法の危機を跳ね返そう!~人間否定の社会から、人間こそがすべての基本という社会に~」は、情勢にぴったりの内容で、わかりやすかったと好評でした。

(鳥取県母親大会ニュースより抜粋し掲載しました)

鳥取県革新懇は9月7日、北栄町公民館大栄分館で14年度総会を開き、集団的自衛権行使容認の閣議決定をはじめ、「戦争する国」世界で一番企業が活動しやすい国」づくりをす

すめる安倍政権と対決し、打倒をめざす方針を確認しました。承認された14年度の「課題と方針」は次のとおりです。

- 1 暴走する安倍政権打倒の国民的共同をひろげ
- 2 憲法を守り生かすたか
- 3 あらゆる分野の安倍政権の暴走に対決し、要求実現の運動を広範囲な団体や人々と連帯・共同して前進させる
- 4 基地も安保もない平和な日本と郷土をめざす
- 5 共同の力で住みよいまちづくりと「住民が主人公」の地方政治をめざす

暴走安倍内閣の打倒を! 県革新懇が総会

ら、次回以降の開催に備えたい。実行委員会は、平和で暮らしよい境港をつくる会、米子医療生協境港支部、全日本年金者組合境港支部、新日本婦人の会境港支部、高齢社会を良くする会in境港、境港民主商工会、境港九条の会で構成しました。(順不同)



政治を変える統一戦線結集をめざす
2 解釈改憲を阻止し、憲法を守り生かすたか
3 あらゆる分野の安倍政権の暴走に対決し、要求実現の運動を広範囲な団体や人々と連帯・共同して前進させる
4 基地も安保もない平和な日本と郷土をめざす
5 共同の力で住みよいまちづくりと「住民が主人公」の地方政治をめざす

山根鳥大教授が 記念講演

14年度総会に先立ち、山根俊喜・鳥取大学教授が「安倍政権における教育改革の動向」と題して記念講演を行いました。

山根教授は、中曽根内閣以降の「教育改革」の基調が新自由主義と新国家主義であると指摘。第二次安倍政権では、いじめや自殺問題などをテーマに「教育の危機」をあり、責任を教育委員会、教師、子どもや父母に転嫁しつつ、本来の国の役割である教育条件の整備を放棄している、と批判しました。

そのうえで、今の教育に求められる真の改革課題は、家庭の経済的背景が子どもの学力格差に強い影響を与えていること、世界最長になっている教師の労働時間を見直して教師の自律性を生かすこと、だと提起しました。このために必要な、子どもの貧困の解消、就学援助の充実、学校の福祉機能の充実と、教師の底上げと専門職としての位置づける必要性を強く訴えました。



新自由主義



講演する渡辺名誉教授 (10月5日、北栄町)

講演会は10月5日に北栄町・大栄農村環境改善センターで、講師に一橋大学名誉教授の渡辺治氏を迎えて開催、秋の催しが多くなる中、各地から200人が参加し、盛り上がりしました。渡辺氏は、安倍政権は海外での武力行使の自由を獲

「月間」を前に南部町で「あいみ9条の会」が誕生。8月には各会が区域全域や駅頭で集団的自衛権反対のビラ、期間中には「中部九条の会」倉吉駅前土曜日行動が続き、境港で「平和のため戦争展」開催、あいみで自民党改憲案連続学習会が始まりました。共同行動で各会の連携も強まり、「戦争をさせない鳥取10000人委員会」も9月に発足しました。

鳥取県九条の会 事務局長 浜田章作

「統一行動月間」に

県下の九条の会が共同行動

6月10日で発足10年を迎えた九条の会は、改憲の動きに対抗し、初めて10月を「統一行動月間」として、すべての九条の会が何らかの行動を、と呼びかけました。これに呼応して、7月26日に県下九条の会交流・懇親会を開き、「九条の会講演会」を中部地区で開催することとし、実行委員会を構成して準備を進めました。

得し、米軍との共同作戦可能な軍隊をつくらうとされている。地域を根城にして、良心的保守を巻き込んだ共同を実現し、広範な国民の力を結集して打ち破ろう、と熱弁をふるいました。

沖縄県知事選挙へのご支援をお願いします

沖縄県知事選挙(11月16日投票)が10月30日に告示され、基地のない平和な沖縄の実現を願う圧倒的多数の県民世論を背景に、県政史上初めて、保守・革新の垣根を越えた「オール沖縄」の代表として翁長雄志(おながたけし)前那覇市長が立候補しました。今、まさに沖縄は「建白書」の実現をめざして、互いの違いを乗り越え、心と力を一つに県知事選挙に臨みます。つきましては、沖縄県知事選挙で必ず勝利し、安倍政権の基盤をも揺るがす政治状況を現実のものとするために、みなさまのご支援をお願いいたします。

◇選挙募金・激励など、物心両面からのご支援をお寄せください

<募金送付先>
郵便振替 01710-9-127910
口座名称 沖縄革新懇